記事ID:K2022032100000011300

浦添（女子）那覇西（男子）V

県高校春季ハンドボール

ハンドボールの第12回ＫＢＣ学園杯争奪第46回県高校春季ハンドボール選手権大会の最終日は20日、那覇市の那覇西高校で行われ、女子決勝は浦添が20―15で那覇西に勝利し、３年ぶりに頂点に立った。男子決勝は那覇西が25―19で北中城を下し、４連覇を果たした。３位決定戦は女子が首里、男子は那覇国際が勝利した。

浦添 平良 躍動「好守速攻」体現

2人退場も集中してしのぐ

ハイライト

前半の序盤から相手の攻撃を防ぎ、速攻を仕掛けて主導権を握った浦添。リードして迎えた後半の中盤、立て続けの反則で2人が退場した。相手に詰め寄られる中で機能したのが、12月の選抜県予選以降、集中して取り組んだ守備だった。数的不利な状況下でも中央からの攻撃を徹底的に防ぎ、GKの好セーブもあって勝利を引き寄せた。

浦添は選抜県予選で準優勝の結果だったが、新型コロナウイルスの影響で九州大会が中止となり、全国への道が途絶えた。新垣未来主将は「今大会は優勝しかないという強い気持ちで臨んだ」と振り返る。

「好守速攻」を掲げ、個人技で突破を仕掛ける相手を挟みこみ、スペースを消した。センターで守備の流れをつくった平良萌笑は「（退場で）4人となった場面も、守るべきところを強く守ることを意識した」という。

サイドからの崩しやポストプレーなど、多彩な攻撃も見せて相手に的を絞らせなかった。神谷綱史監督は「コロナ禍で時間が限られる中でも集中して、時間を大切に練習に取り組んできた結果だ」と選手らをたたえた。（池田哲平）

上女子決勝　浦添―那覇西　後半、ディフェンスを突破し、シュートを放つ浦添の平良萌笑下男子決勝　那覇西―北中城　好セーブを連発し、勝利に貢献した那覇西のＧＫ・浦崎虹陽＝20日、那覇西高校体育館（又吉康秀撮影）

ＧＫ浦崎 守備で流れ

那覇西

エース不在、連係でカバー

焦点

昨年12月の選抜県予選準決勝で、わずか1点差でかわした北中城との対戦となった那覇西は、立ち上がりからGK浦崎虹陽が好セーブを連発し、守備からつくった流れを最後まで渡さなかった。攻撃では主将の黒島大貴が起点となり、自らもチーム最多の7得点を奪った。右サイドの伊波真斗も着実に得点を重ねた。

エースの田場心大が、けがで不在となる中、今大会は攻撃面の課題をチームの連係でカバーした。黒島らが積極的に1対1を仕掛け、引きつけたところでパスを出しスペースをつくった。

守備では大城樹ノ介が相手のエースに対し、前から当たる積極的な守備を見せた。ロングシュートには手を上げて食らいついた。大城は「最初から止める気持ちだった」と胸を張る。

前半を13―6で折り返したが、後半序盤の約4分間は得点が止まり、久高清龍監督から「シンプルに」とげきが飛ぶ場面もあった。試合後、久高監督は「前のめりに行き過ぎていた」と振り返り、夏に向けて攻守の両面を改善する考えを示した。（池田哲平）

女子の部で優勝した浦添

男子の部で優勝した那覇西

琉球新報

無断複製・転載を禁じます